

か  
ぢ

## 新 庄 よ し こ

まり子さんはかぎを持つのが大好きでした。何だか面白くてたまりませんでした。

お父さまのお室にある大きなデスク、お父様がかチャーンと鍵でおあけになるに四角な抽出しがスーと前の方に大きく出て来て、その中にはいろんなものが一ぱいはいつてゐます。御用がすんで又かぎをかけるに、もうさうしてもお抽出しがあきません。

お母さまが手提金庫をおあけになるのもかぎ、この中にはいつてゐるものをまり子さんは一寸いちづつてみたたくてたまりませんでした。

「まりちゃん、この中のものはまりちゃんがいちづつてはいけないんですよ、大事なものはかりですからね」

お母さんはかうおつしやつて又かぎをおかけになるにピタツミしまつた金庫の蓋はさうしてもあかないのでござい

ます。

かぎ、かぎ。まり子さんはこのかぎが、おもしろくて、なんだかえらさうで、いつもさう思つてゐました。

かぎをかけて見たくてたまりませんでした。

まり子さんのお家のかぎの箱は、お家のかつかうをしたチヨコレートのあきばこでございます。

「あら、これは鍵の箱に丁度いいに、まり子さん、お母さまに頂だいね」

リングミりかへつこした箱なのでございます。ガチャ／＼と随分澤山はいつてゐる鍵は、それがざれだかちつともわかりませんでした。けれどその中でたつた一つ、それは一番大きなかぎで、西洋館の大きい扉をあけるのだけはまり子さんが知つてゐました。

今日は大晦日、あしたは元日、まり子さんは今度七つになります。さあ皆さんの着物を揃へませうとお母さまは、たんすをおあけになるので、かぎを持っていらつしやいました。

スーさあいた抽出しには、お姉さまの着物、まり子さんの着物、帯、お被布、あのかぎがこんなに、綺麗なきものを澤山出してくれたやうに思つて、それはく嬉しうございました。

さて、お正月になつて、今日はいゝお天気。學校のお式から歸つて来たお姉さんやお兄さんはお父様と明治神宮にお詣りにいらつしやることになりました。

「今日はね、あんまり多勢の人がおまゐりするので、大らばつかり行きますよ、まり子はお留守居していらつしやいね」

とおつしやいました。

お母さまは、お客様でお忙しいし、一人ぢや羽根もつけないし、みかんは食べてしまつたし、少しまり子さんはつまらなくなりました。誰か遊ばうかしらと思つたまり子さ

んはふさかぎの箱をデツミ見ました、そして中からたつた一つ知つてゐる西洋かんのかぎを出して来て、一人でそつと西洋かんへはいつて、かぎをかけてしまひました。ガヂヤンミ、とても大きな音がして、もう扉はうごきません。何だかまり子さんは嬉しくつてく、えらくなつたやうで、そのかぎを、こつちのたもぎに入れて見ました、又こつちの袂へ入れて見ました。あつちへやつたり、こつちへやつたり、ふさころへ入れて見たり、その中くたびれて、まり子さんは寢臺の中にもぐつてしまひました。

「あら、まり子はごうしたんでせう」。

「ここへ行つたんでせう」。

家中大さはぎで、ゐなくなつたまり子さんをさがし始めました。方々のお室から、物置から、お風呂場からおはゞかりから、みんなさがしてみましたけれど、ここにもありません。

あら、西洋かんらしいわ、扉があかないのよ、ミ唯かゞ云つたのでみんなでこゝ迄喜んで來ました。でも、困つたここには、かぎを持つたまり子さんはぐうぐうねてゐます

もの。

仕方がないのでかぎの穴からそーつゝ覗いたお母さんや、お姉さんが小さい穴のところに口をつけて

まり子さあーん

まり子さあーん

こよびましたので、もくもく起き上つたまり子さんもびつくりしてかぎの穴の所にさんで來ました、かぎの穴の両方からおはなしが始りました。

「まりちゃん、あけて出ていらつしやいよ。」

そこでもこをふつて見ました。

でも困つたことに、まり子さんは一生懸命にさがして見るけれさかぎが見つかりません。

「かぎがないのよ——」

「さがしてごらんなさいよ——」

「さーおいたの」

「私、おふりそでん中にいれたいのよ。」

(洋ふくばかりのまり子さんお袖が長いのでおふりそでだき思つてゐます)。

「ちや お寢臺をよくさがしてごらんなさいな」  
でもさうしても見つかりません。

「ないの……」

いつ迄待つても仕方がありません。まり子さんは大きなかぎを自分でかけたので始めは嬉しかつたのですが、扉があかなくなつたし、鍵はないし、少し泣きたくなりました。

それでたうく鍵屋さんに頼んであけてもらつたになりました。

それからは新らしく出來た西洋かんの鍵へ、大きな木の札をつけて、誰にでもすぐわかるようにしておきました。

\*

\*

\*

\*

\*

\*